



丘廼家先生評  
 地藏尊  
 上納谷  
 翠燈句合



企  
 和指  
 山月



得夫(夢)



八

十



魚譜

四魚

五魚

一  
二  
三  
四

換

炎天

炎天あまや牛の涎の急げりつく

大方天あまや牛も流石に早めど

大方天あまや八ッ年の善よきいふりせぬ

大方天あまにらみつめあまり鬼あまの

大方天あまを合點あま顔あま存あま煙仕事

大方天あまや観あまけは沈む井戸の魚

大天や一寸も動かぬ地を尊

大天や一樹の蔭に永遠し

大天に氷車の速きうし

大天の砂地を軋る石車

大天や風に叫く草の息

大天や干魚臭き延まか

大天や赤銅に似た漁夫の肌

大天や作を見廻る精農は

大天やさかの見つめ細流

大天や野中の地をがまへよ

大天や自動車走る道の埃

大天や油にちま電車道

大天や指揮刀をえる馬の上

大天や鉢本に水のやりどちろ

高風  
高風  
高風

大天に悟道もとくや地帯の

大地は裂けし雲もなし

満州の野の土煙り

土煙まゝ、馬車の行く

今も出て行く蜻蛉釣

涼しき語る氷り店

笠も着ぬ泥鰌捕

高橋の上の屋根をふく

銀蠅集ふ土龍の死屍

裸児集ふ砂川原

干鰯唐がし砂積

石積んで行く牛車

藁草を干す軒の石

貝殻まゝ磯の傍

か夫天に汲み置く凡そ下つゝまやか

か夫天や一時野珠もテント内

か夫天の金奥に覆へしむすの筆

か夫天や足平暑き河原道

か夫天や大地の蟻が蚯蚓成すく

か夫天やあふい筆取たるトリス屋根

か夫天の庭に野球の試合あり

か夫天や日除けの深く店の手き

か夫天や鴉の来食る遠干沼

か夫天やせんか夫天に立つ金佛

か夫天や重荷に啼く馬の呼吸

か夫夫の屋根に左官の仕る所

か夫天や蝶の羽根引く蟻の群

か夫天の体操雄々し丸裸

か夫や焦付きそいな山巖の塔苔

か夫や畔に干上る沙奥と海老

か夫や靖国神社 大華表

か夫や牛引り行く砂河原

か夫や帆影も見へぬ砂河原

か夫や鳥も啼き止む峰の松

か夫や火も吐きそいな鬼瓦

か夫や赤く澄み渡る空の色

か夫や張物乾く裏表

か夫や素肌肌に曇りの渡り

か夫に魚丸まっ都大路の

か夫にまばゆき寺の薔の草

か夫や暫し影なた相の

か夫や水にも見ゆる 羽 流れ

か夫天<sup>まきひ</sup>中 煙 なひかす 風 も なき

か夫天<sup>まきひ</sup>や 磯 辺 の 砂 に まる 貝

か夫天<sup>まきひ</sup>や ~~羅~~亭 屋 や 煙 管 の 笛 鳴 り

か夫天<sup>まきひ</sup>や ~~地~~岸 の 鼓 も 砂 埃

か夫天<sup>まきひ</sup>や ~~河~~童 野 郎 の 素 裸

か夫天<sup>まきひ</sup>や 人 骨 晒 す 醫 局 の 校

か夫天<sup>まきひ</sup>や 堀 に 人 なき 井 澤 川 船

か夫天<sup>まきひ</sup>や ~~冬~~より 熱 き 船 の 釘

か夫天<sup>まきひ</sup>に 働 く 蟻 の 努力

鉄 斗 り 有 る 夫 天 の 地 ぢ

か夫天<sup>まきひ</sup>や 都 の 人 も 田 の ぢ

か夫天<sup>まきひ</sup>の 庭 に 武 を 練 る 兵 士 が

か夫天<sup>まきひ</sup>の 道 や 行 軍 の 靴 の 音

か夫天<sup>まきひ</sup>や 山 田 は 何 ぬ も 水 不 足



カ大天や埃の道をオートバイ

カ大天に作は登々進みナ

カ大天中木影傳へに通る

カ大天を撰ぶ嫁家定齋

カ大天や大木の下に懐あめ

カ大天や兵士にさしも日射病

カ大天や盃の中に毒の酔が

カ大天に声頻りな御油

くえまかせに笑天のたぐい

嚴然とカ大天に立つ山崎

カ大天や馬をいたてる森の

カ大天や新きもやらぬ沼の

カ大天に浮くともらの奇雲が

カ大天や廣漠十里駱駝旅

か大天や <sup>まき</sup> 暫し途断えし渡船舟

か大夫に <sup>まき</sup> 三馬校の競技可なり

か大天に <sup>まき</sup> 烏賊干す濱の匂うて

か大天を <sup>まき</sup> 獨り得意や氷 <sup>まき</sup> 盛り

か大天や <sup>まき</sup> 踏み所なき砂何る所

か大夫や <sup>まき</sup> 笠もかぶらす定齋 <sup>まき</sup> 盛り

か大天や <sup>まき</sup> 跣足詰の富士行者

か大天に <sup>まき</sup> 急ぐ電報配達人

か大天や <sup>まき</sup> 地雷大試す燧何る所

か大天や <sup>まき</sup> 見るもあつたな <sup>まき</sup> 雲斗

か大天や <sup>まき</sup> 野 <sup>まき</sup> 球 <sup>まき</sup> 少年 <sup>まき</sup> 半 <sup>まき</sup> 覇 <sup>まき</sup> 戦

か大天や <sup>まき</sup> 丈 <sup>まき</sup> 竹 <sup>まき</sup> 籠 <sup>まき</sup> 背 <sup>まき</sup> 負 <sup>まき</sup> か <sup>まき</sup> せ <sup>まき</sup> り

か大天や <sup>まき</sup> 呼 <sup>まき</sup> ぶ <sup>まき</sup> と <sup>まき</sup> 渡 <sup>まき</sup> 船 <sup>まき</sup> の <sup>まき</sup> 返 <sup>まき</sup> 事 <sup>まき</sup> な <sup>まき</sup> し

か大夫や <sup>まき</sup> 麦 <sup>まき</sup> 稈 <sup>まき</sup> 焚 <sup>まき</sup> へ <sup>まき</sup> 書 <sup>まき</sup> 仕 <sup>まき</sup> 度

突天や馬の脊にのすぬれむーろ  
突天や河系に啼く迷い犬

突天や雑糞あぎとふらさる川

突天や水辺の木立賑はーま

突天やふらふら垂ゆるる河系道

突天や田車踏みの裸みの

突天に麦糠を焼く煙 白き

突天の石橋 飛んで渡りナリ

突天に澤 廣ふ干す白か

突天や風鈴 夢りのま行り

突天や鶴 甍 える道 善 渡

突天や埃の道に蛇の 跡

突天や仕事 染えある 撒水車

突天や 松影 道と急き 足



雨乞

撒

雨乞まきひヤ結頼神酒をまきあぐ

雨乞まきひヤ其角の昔物語リ

雨乞まきひヤ文もど巻る雷神社

雨乞まきひヤ歌子もあぐん穴のえ

雨乞まきひヤ滞れるを居る歌の弟子

雨乞まきひヤ滞れる支度の駈走リ

雨乞まきひヤ冬まきひの如き笛太鼓

雨乞まきひヤ土地の廣さや祈鐘

雨乞まきひヤ雷電まきひ標に牛まきひの刻

雨乞まきひヤ草木まきひの風も音まきひなまきひず

雨乞まきひヤ滞まきひれで戻まきひるもまきひ嬉まきひし祈まきひり雨まきひ

雨乞まきひヤ祈まきひり雨まきひをまきひ聞まきひきなまきひらまきひず

雨乞まきひヤ札まきひ配まきひりまきひけりまきひ金まきひ五まきひ銭まきひ

雨乞の誠意に湧きぬ思き雲  
雨乞や 流水連つ竹の筒

雨乞や 神のほかも水少な  
雨乞に 籠る社頭や 俄か一雨

雨乞や 時雨雲見えて 嬉然とす  
雨乞に 獅好 持ち巡る 氏子の

雨乞や 夜毎に 赤い印 ありお鼓

杖とめて 老の祈りや 雨をこよふ

名、隠くる 行者を呼んで 雨祈

雨乞に 執事 捧ぐ 谷間の 祠の

雨乞の 空を なめめと かこちけり

雨乞や 沛然と 夕まきす

雨乞や 降るか 降るかとおをぐん

洪水の 国もあるのに 雨 祈

太鼓の音 天まで届く雨祈

雨乞の太鼓止みけり俄一雨

産神の法剣肉きぬ雨祈

雨乞の太鼓おつたり村社

陸稲枯れし十戸の村や雨乞す

陸稲枯れて実ぬぬ畑雨乞す

雨乞や氏子揃へて川垢離

何ちちちと太鼓の音や雨祈

巫の垢離修行や雨祈

雷神のは水運つて雨祈

入道雲立ち笑顔や雨祈

雨乞や氏子の籠れる地は産

雨乞や利益をむねに願ひの定

氏子揃 雨申粧ふる雨祈

雨あめの音ね 日々ひび、祈いのちりに暖ぬるれる声こゑ

雨あめ気けづく空そらに雲くもむや 雨あめ祈いのち

夢ゆめ交まじりに雲くもためえ 雨あめ祈いのち

雨あめの音ね 小町こまちの歌うたの思おもはるゝ

雨あめの音ね 共々ともとも祈いのちる 旅たびの人ひと

雨あめの音ね 里さと賑にぎはる 鉦かね太鼓たいこ

雨あめの音ね 雷かみなりも来きよ 鉦かね太鼓たいこ

雨あめの音ね 水車すゐぐるまの音ねもなし

雨あめの音ね 葉はの音ねもなし

雨あめの音ね 板いたの音ねもなし

雨あめの音ね 祈いのちの音ねもなし

雨あめの音ね 神かみの音ねもなし

雨あめの音ね 祈いのちの音ねもなし

雨あめの音ね 祈いのちの音ねもなし



能い程に降せ給へよ雨祈

田畑の仕る休ませ雨祈

旱雨こや雲に潤ふ人

雨こや宮に籠りし鬼の人

雨こや敵を神に七晝夜

神の勢にすゑる外なし雨祈

雨こや祈禱の声に雨ふくむ

雨こや祈る終る終る夜

雨こや暮暮々の笛太鼓

雨こや峠を下る女馬士

雨こや鎮守賑ふ太鼓の音

雨こや降る世くとまきりナリ

雨こや幣のまかす風のまじ

雨こや雨を祝ふる遊ぶ甲斐

雨乞<sup>たまひ</sup>の黒雲の生む筑波山

雨乞<sup>たまひ</sup>の一心天に届きけり

雨乞<sup>たまひ</sup>の雨も翻さぬまきし雲

雨乞<sup>たまひ</sup>の女と調子つきけり雨祈

は利益の雨乞入道や雨祈

板倉一代参まゝ雨祈

雨乞<sup>たまひ</sup>の片肌ぬゝあつた太鼓

雨乞<sup>たまひ</sup>の地まかふる握<sup>握</sup>り飯

太鼓の雨乞祈の恵み哉

雨乞<sup>たまひ</sup>の神の恵や大雷雨

鈴太鼓あれも雨乞祈念哉

雨乞<sup>たまひ</sup>の谷間に響く太鼓の音

雨乞<sup>たまひ</sup>のこれ田を思ふは空おむ

雨乞<sup>たまひ</sup>の水田はこれ埃りま

雨乞に道邊の集り

乞ふ雨は来もせど夜毎月照る

谷水もかれし響や雨祈

雨乞に出す天國の待劍

飲む水も冬さや身の雨祈

雨乞や河原勝ちなる利根の底

雨乞や夜曇るのそ又晴る

雨乞や笠等も夢にし昔門前

静神に執貫捧けをや雨待

雨乞や浮きとる雲に霞

雨乞や雲立見こそとはづ女

雨乞や神を祈の世ら水

真心の天に届けや雨祈

雨乞や畑作物は焼け色

雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>終<sup>はつ</sup>り<sup>ひ</sup>止<sup>と</sup>ま<sup>め</sup>ぬ<sup>し</sup> 鈴<sup>すず</sup>太<sup>たい</sup>鼓<sup>こ</sup>

雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>心<sup>こころ</sup>か<sup>ら</sup>誦<sup>じゆ</sup>む<sup>む</sup> 其<sup>その</sup>角<sup>かく</sup>の<sup>の</sup>句<sup>く</sup>

雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>水<sup>みづ</sup>制<sup>せい</sup>限<sup>げん</sup>の<sup>の</sup>樋<sup>ひ</sup>守<sup>まも</sup>り<sup>り</sup>

音<sup>ね</sup>高<sup>たか</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>す<sup>す</sup> 太<sup>たい</sup>鼓<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>こ

酒<sup>さけ</sup>の<sup>の</sup>香<sup>かほ</sup>を<sup>を</sup>舞<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>す<sup>す</sup> 舞<sup>ま</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>こ

作<sup>しやく</sup>を<sup>を</sup>見<sup>み</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>す<sup>す</sup> 活<sup>かつ</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>こ

雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>や<sup>や</sup>雲<sup>くも</sup>着<sup>き</sup>る<sup>る</sup> 雷<sup>かみ</sup>電<sup>でん</sup>社<sup>しゃ</sup>

雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>と<sup>と</sup>雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>は<sup>は</sup>夏<sup>なつ</sup>の<sup>の</sup>鼓<sup>こ</sup>

あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>も<sup>も</sup>雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>呼<sup>よ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>声<sup>こゑ</sup>や<sup>や</sup>新<sup>あたら</sup>開<sup>ひら</sup>地<sup>ち</sup>

海<sup>うみ</sup>路<sup>ぢ</sup>引<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>は<sup>は</sup>働<sup>はたら</sup>か<sup>か</sup>す<sup>す</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>用<sup>もち</sup>

雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>や<sup>や</sup>天<sup>あま</sup>佐<sup>さ</sup>張<sup>はり</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup> 鈴<sup>すず</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>

何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>鳥<sup>とり</sup>の<sup>の</sup>音<sup>ね</sup>や<sup>や</sup>雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>新<sup>あたら</sup>

雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>や<sup>や</sup>神<sup>かみ</sup>の<sup>の</sup>渡<sup>わた</sup>り<sup>り</sup> 虹<sup>にじ</sup>の<sup>の</sup>橋<sup>はし</sup>

雨<sup>あめ</sup>の<sup>つゆ</sup>の<sup>の</sup>降<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>や<sup>や</sup>降<sup>ふ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ぼ<sup>ぼ</sup>つ<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>な

破今<sup>あまの</sup>春つてととけり 雨 遊い  
雨このく年は不作のなきものよ  
雨このや 小作争議はすかぬ 村  
雨このや 一乃木の雨に流るる 寺  
雨このや 法手洗池 浚ふ若手屋  
雨このや 龍神 参る 湖畔の 祠  
雨このや 雲を巻く主は 晴れると取

雨このや 子供も 依ゆる 観音経  
雨このや 天に届けとあつた 藪  
雨このや 雨このや 声や 夜更 何  
雨このや 三度の 神は 15 箇に  
此より 雨有れば 豊か 雨新  
結ぶ 雨の 雨の 明日 也  
有る 神の 雨の 雨新

雲行は南をけり 雨祈

雨乞のまゝ <sup>八重</sup> 此まゝとばかり 雨祈

雨乞 <sup>八重</sup> や神の恵み降る 夜雨

神あらば天の川水せき下させ

一日も早ふ降せよ 雨祈

雷は今日も北なり 雨祈

埃り <sup>八重</sup> 走つ <sup>八重</sup> 祠 <sup>八重</sup> の庭 <sup>八重</sup> や 雨祈

雨乞 <sup>八重</sup> や 雨乞 <sup>八重</sup> かる 雨は降りせど

野分

冷然と野分の申や 仕佛

野分 <sup>八重</sup> 一 <sup>八重</sup> でお化けの元のあはれぬ

芦 <sup>八重</sup> 立ちき 地に伏す 近の野分が

釣 <sup>八重</sup> 竿の <sup>八重</sup> まゝ <sup>八重</sup> かけ <sup>八重</sup> てる <sup>八重</sup> 有る <sup>八重</sup> 野分が

足元 <sup>八重</sup> に <sup>八重</sup> 立つ <sup>八重</sup> や <sup>八重</sup> 野分 <sup>八重</sup> の <sup>八重</sup> ま <sup>八重</sup> ぐ <sup>八重</sup> れ <sup>八重</sup> 身

甘露 <sup>八重</sup> の <sup>八重</sup> 化 <sup>八重</sup> に <sup>八重</sup> 水 <sup>八重</sup> 神 <sup>八重</sup> 祭 <sup>八重</sup> る <sup>八重</sup> 野分 <sup>八重</sup> が

野分 <sup>八重</sup> 吹き <sup>八重</sup> 名 <sup>八重</sup> 月 <sup>八重</sup> 片 <sup>八重</sup> 側 <sup>八重</sup> 張 <sup>八重</sup> お <sup>八重</sup> んと <sup>八重</sup> す

野分吹き大は原の潮 夕夕

地震より野分止み雨と有りけり

温泉の湯湯の早く閉せし野分吹

月月一つ吹き残し多る野分吹

野分吹跡温泉桶の湧水の平入成

安旅籠見つけぬ野分止し吹

野分吹跡の掃除や山の坊

野分吹跡の静かなる煙

野分吹く中や地元の平な顔

碑碑にまゝよたきつけ多る野分吹

野分止む窓に月見えと漢書が

野分吹すや茶店の戸簾に飛ぶ朝

野分止んで庭に夕暮り法外

狐火の情情たる古壺の野分吹

野分すや屋上の松のそよぎ  
金堂の中までされむ野分  
空高く雲吹きなぐる野分  
野分一と庭の築折戸倒れけり  
枝共に柿の實落ちて野分  
糸瓜棚ひーかと潰せー野分  
野分一と松が喜高き石  
足

風音に寝つかれぬ夜の野分  
時ありぬ庭の落葉や野分  
山内徒に草喰む馬や野分  
山腹の塔の高きよ野分  
野分吹くや柳の山崩れー牧場跡

同  
野分

豊かある年を野分のきりー  
早稲めけは野分知らずや黄金色



柿落ちて口に溢る多き野分が  
 早稲黄ばみ跡の中稲の野分が  
 池底に金魚隠る、野分が  
 場所換つて野分のがる、船帯世  
 朝早く起きて野分廻る野分跡  
 遅刻せー軍用鳩の野分が  
 狼藉や野分の跡の庭のさま  
 見なれる鳥吹かれ行く野分が  
 根倒しにさかー木も有り野分跡  
 木の枝、折る音響き野分が  
 燈台が警備の鳴る野分が  
 野分して吹倒れつ渡り小屋  
 野分してすつた曲る渡船小屋  
 野地帯の跡撫むけり野分が

事

破垣も吹き倒れ——野分が  
草臥——月静かなり野分跡  
對岸の草莽なびく野分が  
旅僧の衣なびかす野分が  
石一つも動かすに野分が  
山之庄の庭かきとる野分が  
瓜垣は倒れもまじ野分跡

日照りて跡爽に野分が  
雲低し木は風に鳴る野分が  
雨戸あつ柿の礎柱野分が  
野分する跡也野廻る人の数  
まに何実りの知れる野分が  
畑の葉の干ぢれそ飛び野分が  
野分して被害の多し蕎麦畑

萌壤もえらの悲報あはれを告ぐる野分あまが

悲情あはれある樹々のまよまよ野分あま跡

栗も柿も利木も憐あはれよ野分あま跡

未菈子あまをちぎり込む日の野分あまが

野分あま跡 けつそり月の昇り下り

野分あま跡 月のせいでとなりにつり

馬子あま唄もは多も途ちれる野分あまが

大佛あまの泰然あはれとて野分あまが

野分あま跡 は秋鴨あまよ多く房りけり

大海あまは怒涛逆巻く野分あまが

世情あはれある野の倉柿や野分あま跡

庭木あまにもふんばり結ぶ野分あまが

木影あまに鳥遊あま遊する野分あまが

鶏あまも足すくはれる野分あまが

船頭しやうとうの棹しやう逃にしむる野分のんぷが

野分のんぷ一ひとも旅人りやくじん体ていも森の影かげ

野分のんぷ一ひとも舟ふねの遠とほくよと某たれにけり

野分のんぷ一ひとも静しずけき空あかや暮くれの夜よ

船頭しやうとうを呼よべと声こゑなき野分のんぷが

入い梅うめ霽はらや野分のんぷに忙いそしめたる鳥とり

往い来きに折しれ多おほ杉すぎ有あり野分のんぷ跡あと

夜よに入いりしを止とめて安やすく野分のんぷが

杖つゑつゝ見み廻まわるる老おきなや野分のんぷ跡あと

標しるしには折しれ多おほ枝えだ有あり野分のんぷ跡あと

衰おとろれなり野分のんぷの跡あとの香かほ 大おほ田た

上かみ汐しほの浪なみ先まへき白しろし野分のんぷ吹ふく

鷺さぎ一ひと羽は吹ふかれる白しろき野分のんぷが

野分のんぷ一ひともも羽は吹ふかれる白しろき野分のんぷが

野社の華麦倒れし野分が  
野分一多跡や殊更よき日和  
凡凍く雨の飛ひ行く野分が  
野も山も即るうなりし野分路  
木嵐の吹き落さるし野分が  
野分しこ不通となりし電話が  
釣船のちち上けられし野分が

春の屋の屋根吹き飛す野分が  
落ちる陽の白壁照す野分が  
桐の葉の音は多しと野分が  
朝草の枝の靡をなす野分が  
桃水の音高く伝く野分が  
洛外や古塔遙に野分する  
野分して麓の里も見ゆるが

かせ馬の尻吹きまくる 野分が  
寄辺まきなき木曾路の旅の野分が  
豊年あきの定めや 野分の昔々の空  
海を鳴る野分の音も遠かすか  
野分止んぞ狐あきあけ出す 名須野分が  
月あきの下 雨あき早き 野分あきの  
野分吹く 隈田の川の廣さを

成の葉あきを 散あき々あきる 野分が  
草の葉の 冠り振る 大け野分が  
野分あきして 明るふなりし 硝子窓  
名も知らぬ鳥 飛來る 野分が  
植木屋に見舞はれけり 野分跡  
野分して一夫高し 草の  
簾あきを 野分あきる人 野分跡

取らぬと望をおさる野分  
思ふ程怪我せんとす野分  
野分しよ小土手に言し地を達  
野分しよ吹き捲き水一桐一葉  
豊凶は今宵一夜に有る野分  
先つ世るぞほつと息つく野分  
野分しよほひをけり支那の夜

物凄く雨に当る野分  
野分しよ春横飛後飛い  
気遣子程の雲を野分跡

枝豆

枝豆や船へ持ち込む料理種  
枝豆や食慾そる湯気そる

枝豆まめか今年取つる畑の初  
枝豆まめや遊茶相手に話一けり  
枝豆まめに妻が慰安のせーんか  
枝豆まめに聊かひきを箱一けり  
妹に枝豆持多せ散るか  
蓋取れは枝豆の白や今朝の枝  
枝豆まめや枝豆まめやとなかみけり

差僧さそうの枝豆まめかけの問答か  
枝豆まめに故山を語る下宿か  
枝豆まめや夜話よはな復たがひけと書おから  
枝豆まめや模範もはん孝子の夜よ間まひ  
枝豆まめや時珍ときちんのさしとさし  
枝豆まめや腹はらの多しにはさか  
枝豆まめや積つみみかぬも実は傳つたか  
枝豆まめや片かた店たなにつんと書る女



農場へ枝豆喰わて巡りけり

枝豆のすきな甚客や安まり

枝豆をむろくれろと泣く児が

枝豆の馳走や子葉の裏比まの顔

枝豆に奈の困賑々——他住居

枝豆の殻に腹立つ猿が

枝豆の老母も森がまきりか

枝豆の草の土産の叔母が家

枝豆のさめるもまゐるで食りにけり

枝豆の可む力なし。娘が

枝豆や廻りる茶更けの皿の上

土間の廣に枝豆、殻散りはりぬ

枝豆や喰ぶともうぬ枝の数

竹の籠に枝豆買し山の備

枝豆 <sup>を</sup> 月明 <sup>の</sup> みに食ふ夜が

枝豆 <sup>を</sup> 舟 <sup>に</sup> 持 <sup>ち</sup> 行 <sup>く</sup> 百 <sup>の</sup> 子

枝豆 <sup>を</sup> むく <sup>や</sup> 揚 <sup>枝</sup> の 指 <sup>の</sup> 毛

枝豆 <sup>や</sup> さらり <sup>さら</sup> ばる <sup>舌</sup> の 毛

枝豆 <sup>や</sup> 田舎 <sup>土</sup> 産 <sup>と</sup> 辨 <sup>し</sup> も

枝豆 <sup>や</sup> 湯 <sup>を</sup> し <sup>加</sup> 減 <sup>に</sup> 有 <sup>る</sup> 風 <sup>味</sup>

枝豆 <sup>の</sup> 舌 <sup>に</sup> 上 <sup>る</sup> 有 <sup>る</sup> 結 <sup>晶</sup> 毛 <sup>の</sup>

枝豆 <sup>の</sup> 時 <sup>に</sup> 味 <sup>よ</sup> き <sup>ま</sup> り <sup>か</sup>

枝豆 <sup>や</sup> 皿 <sup>は</sup> ち <sup>や</sup> ぼ <sup>台</sup> 月 <sup>は</sup> 支 <sup>那</sup>

枝豆 <sup>や</sup> 田舎 <sup>を</sup> 火 <sup>を</sup> 京 <sup>の</sup> 風

枝豆 <sup>の</sup> 殻 <sup>や</sup> 扱 <sup>け</sup> 込 <sup>む</sup> 厩 <sup>に</sup>

黄 <sup>豆</sup> や 枝豆 <sup>提</sup> げ <sup>て</sup> 野 <sup>良</sup> 度 <sup>り</sup>

枝豆 <sup>の</sup> 殻 <sup>の</sup> 精 <sup>る</sup> や 食 <sup>の</sup> 上

枝豆 <sup>や</sup> 枝 <sup>其</sup> ま <sup>も</sup> 客 <sup>の</sup> 所

枝豆のはちけ飛びけり人の膝

枝豆の捧けそ有るや観世音

枝豆やさしく丸傷む替のせし

枝豆やはちし鼓は馬のもの

枝豆や野庚り鼠の一抱へ

枝豆や一す一杯ボール家

枝豆や先つ俵前へ子供

枝豆や節り葉えする地草壺

枝豆や辞直をぬしつ手をとぬ

枝豆や後をぬかりし児使交り

枝豆やよまは又チせらふ一葉ぬ

枝豆やはふりと振ゆり浪の記

枝豆や余のつる張る女客

朝市に枝豆を売る女客

枝豆や夕餉賑ふ 母の家

枝豆や香仲よき 田舎事

枝豆や口のませる 女の思

枝豆や実入加減に有る 風味

枝豆や及ひ腰しそ 運ふ足

枝豆に足元志どろも ところか

あめつらーおと 枝豆頂けり

枝豆や匂作る 雑戸ふ妻の口

枝豆や月曜は 灘の生一本

枝豆や袋はあを ず喰上牛

枝豆や田舎流る 垣の内

枝豆や唯憚るぬ 靴新

枝豆をばらやちやんと 急んあーそ

枝豆や取うーと 金とぬ多る 文

枝豆まめや乳房ちちうぶはあーとまじり寄る

枝豆まめや釜かまを圍かこんで家の中

枝豆まめや泣なみく鬼おにの口くちはでき込こむ

枝豆まめや大鍋おほなべで煮る大一家おほいけ

枝豆まめやえつ佛前ぶつぜんに手向てむかけ

枝豆まめを公こう明めいへまきに配くわけ

枝豆まめや早はやの汁じゆと東あづまの飯いひ

枝豆まめや半はんに焼やかせる市いちに出でます

枝豆まめや瞳ひとみまーそうに家の中うち

枝豆まめや姉あねは妹いもうとに分わけをせり

枝豆まめに遠とほく引ひかきぬる増ます

枝えだのま、釜かまに煮にゆる、大おほ豆まめが

枝豆まめや釜かまを入れいれ呼よぶ、西にしの

枝豆まめを煮にゆる、摘とむや早はやの汁じゆ

走り<sup>まきひ</sup>と<sup>まきひ</sup>枝豆<sup>まきひ</sup>手向<sup>まきひ</sup>く佛<sup>まきひ</sup>写<sup>まきひ</sup>か  
 枝豆<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>ビール<sup>まきひ</sup>肴<sup>まきひ</sup>に<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>と<sup>まきひ</sup>つまみ<sup>まきひ</sup>  
 枝豆<sup>まきひ</sup>やは<sup>まきひ</sup>ち<sup>まきひ</sup>ら<sup>まきひ</sup>る<sup>まきひ</sup>食<sup>まきひ</sup>ぶ<sup>まきひ</sup>る<sup>まきひ</sup>其<sup>まきひ</sup>味<sup>まきひ</sup>  
 枝豆<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>田<sup>まきひ</sup>畦<sup>まきひ</sup>も<sup>まきひ</sup>来<sup>まきひ</sup>は<sup>まきひ</sup>別<sup>まきひ</sup>味<sup>まきひ</sup>  
 枝豆<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>乳<sup>まきひ</sup>母<sup>まきひ</sup>の<sup>まきひ</sup>思<sup>まきひ</sup>よ<sup>まきひ</sup>う<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>と<sup>まきひ</sup>味<sup>まきひ</sup>  
 枝豆<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>と<sup>まきひ</sup>粒<sup>まきひ</sup>つ<sup>まきひ</sup>に<sup>まきひ</sup>味<sup>まきひ</sup>の<sup>まきひ</sup>あ<sup>まきひ</sup>ま<sup>まきひ</sup>  
 枝豆<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>料<sup>まきひ</sup>理<sup>まきひ</sup>待<sup>まきひ</sup>つ<sup>まきひ</sup>留<sup>まきひ</sup>に<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>と<sup>まきひ</sup>相<sup>まきひ</sup>み<sup>まきひ</sup>

枝<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>豆<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>會<sup>まきひ</sup>に<sup>まきひ</sup>感<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>多<sup>まきひ</sup>る<sup>まきひ</sup>子<sup>まきひ</sup>世<sup>まきひ</sup>々<sup>まきひ</sup>  
 枝<sup>まきひ</sup>豆<sup>まきひ</sup>を<sup>まきひ</sup>愛<sup>まきひ</sup>る<sup>まきひ</sup>喰<sup>まきひ</sup>ふ<sup>まきひ</sup>者<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>酒<sup>まきひ</sup>の<sup>まきひ</sup>膳<sup>まきひ</sup>  
 鈴<sup>まきひ</sup>生<sup>まきひ</sup>りの<sup>まきひ</sup>枝<sup>まきひ</sup>豆<sup>まきひ</sup>並<sup>まきひ</sup>ぶ<sup>まきひ</sup>市<sup>まきひ</sup>場<sup>まきひ</sup>の<sup>まきひ</sup>  
 枝<sup>まきひ</sup>豆<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>世<sup>まきひ</sup>間<sup>まきひ</sup>話<sup>まきひ</sup>に<sup>まきひ</sup>積<sup>まきひ</sup>る<sup>まきひ</sup>殼<sup>まきひ</sup>  
 肥<sup>まきひ</sup>汲<sup>まきひ</sup>みの<sup>まきひ</sup>枝<sup>まきひ</sup>豆<sup>まきひ</sup>敷<sup>まきひ</sup>せ<sup>まきひ</sup>る<sup>まきひ</sup>角<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>け<sup>まきひ</sup>  
 枝<sup>まきひ</sup>豆<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>踏<sup>まきひ</sup>み<sup>まきひ</sup>し<sup>まきひ</sup>筋<sup>まきひ</sup>多<sup>まきひ</sup>る<sup>まきひ</sup>畦<sup>まきひ</sup>の<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>け<sup>まきひ</sup>  
 藪<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>母<sup>まきひ</sup>に<sup>まきひ</sup>し<sup>まきひ</sup>や<sup>まきひ</sup>ぶ<sup>まきひ</sup>る<sup>まきひ</sup>も<sup>まきひ</sup>た<sup>まきひ</sup>一<sup>まきひ</sup>枝<sup>まきひ</sup>の<sup>まきひ</sup>豆<sup>まきひ</sup>

枝の豆後引かれや又一つ

呼ばれども又一つ取る枝の豆

逢いに乳母枝豆持つと来多りけり

枝豆や嫁は端居に遠慮勝ち

枝豆や捨て殻粒しく情のみ

枝豆や秋は先祖の七回忌

枝豆や都も里も同じ味

枝豆を並べて漬する第外

枝豆や相手をさらはめ啼すまへ

枝豆を喰ぶす嫌ひと申しけり

枝豆をしゃくとの機嫌直りけり

枝豆の味に果しは甘ありけり

枝豆や食へる冬も減らぬ山崎

枝豆や紅の付らぬる茨も有る

枝豆やものは早まきが愛される

網棚や枝豆月立つ上へはま

枝豆や<sup>まき</sup>辞宣をなへつち

枝豆の笑わらうまほし

枝豆<sup>まき</sup>先つ一枝をなへ

枝豆や<sup>まき</sup>枝を敷く

枝豆や人の分直新さがる

枝豆と兎にゆめられそ月の睦

枝豆を<sup>まき</sup>むく代へ

枝豆や<sup>まき</sup>睦まへ

枝豆や<sup>まき</sup>豊かそうなる

枝豆や<sup>まき</sup>形ぬふる

枝豆や<sup>まき</sup>命つる

枝豆や<sup>まき</sup>鼻<sup>まき</sup>に



志敬



又蚕

禪僧も~~情~~<sup>性</sup>には克まず蚕嫌ひ

蚕はねて~~將軍~~將軍閣下動きけり

奥様も~~座~~座をもざりけり蚕一つ

蚕の~~跡~~見せそ立ちける小猫か

免角する~~向~~向に蚕飛んで夜明けり

蚕~~飛~~ふやわ寺は居内も定まらず

湯屋に行き~~分~~分貝蚕富に糸を替へ

夜半俄か~~蚕~~蚕捕る物をふりにけり

床~~あ~~あろでは~~蚕~~蚕の習きかたなりき

蚕に~~起~~起きそ向きを替へる枕か

朝~~雨~~雨に~~く~~くつすり寝る蚕嫌ひ

蚕に~~起~~起きそ疲れ眼~~閉~~閉き灯か

朝々や~~蚕~~蚕取も又一仕り

羽二重に似る<sup>まじり</sup>息の肌や蚤の跡  
夜を更す<sup>まじり</sup>灯や蚤のあやめより  
美事なる<sup>まじり</sup>競<sup>あそび</sup>蚤のはねは合  
むづつらる<sup>まじり</sup>蚤に眠れぬ子供  
蚤拾ふ<sup>まじり</sup>猿の親子の可愛うさま  
蚤取つて<sup>まじり</sup>漬<sup>し</sup>一葉ゆるる<sup>まじり</sup>蓮<sup>は</sup>から<sup>まじり</sup>婆  
蚤拾ふ<sup>まじり</sup>柔<sup>な</sup>ほけ眼や床の上

新嫁の蚤<sup>まじり</sup>とる<sup>まじり</sup>壽屋かへこえなし  
大木の枝<sup>まじり</sup>にとる<sup>まじり</sup>猿<sup>まじり</sup>うやめ  
蚤とんて<sup>まじり</sup>手<sup>まじり</sup>桶<sup>まじり</sup>に捨つ<sup>まじり</sup>か膝<sup>まじり</sup>半<sup>まじり</sup>え  
蚤取つ<sup>まじり</sup>か<sup>まじり</sup>暇<sup>まじり</sup>にあか<sup>まじり</sup>く<sup>まじり</sup>様<sup>まじり</sup>の<sup>まじり</sup>え  
色<sup>まじり</sup>白<sup>まじり</sup>き<sup>まじり</sup>肌<sup>まじり</sup>に見<sup>まじり</sup>ま<sup>まじり</sup>つ<sup>まじり</sup>か<sup>まじり</sup>蚤<sup>まじり</sup>の<sup>まじり</sup>跡<sup>まじり</sup>  
とかさ<sup>まじり</sup>らる<sup>まじり</sup>娘<sup>まじり</sup>の<sup>まじり</sup>世<sup>まじり</sup>や<sup>まじり</sup>蚤<sup>まじり</sup>一<sup>まじり</sup>つ  
蚤の居<sup>まじり</sup>る<sup>まじり</sup>花<sup>まじり</sup>活<sup>まじり</sup>る<sup>まじり</sup>膝<sup>まじり</sup>の<sup>まじり</sup>跡<sup>まじり</sup>

痒かゆかりこむつかるこ稚児こや背こ中のこ蚤

蚤こ飛こや今こ讀こみかこけしこ新こ圃こ哉

蚤この音こも知こらでこ寐こ付こきこぬこ旅こ枕

蚤こ一こはこぬこてこ乱こるこ丸こ座こ哉

蚤こにこ酔こらこるこ寐こらこれこぬこ夜こやこ蚤このこ数

蚤この影こ指こすこひこまこにこ遊こサこにこナこー

眠こるこ児このこ蚤こ捕こるこ母このこ情こ外こ  
寐こそこかこれこてこ寐こにこうこるこきこしこ蚤このこ憂

蚤こ捕こちこまこのこ潰こサこーこまこやこ爪このこ先

憤こりしこ赤こ児このこ肌こやこ蚤このこ跡こ痕

縫こ代こにこ宿これるこ蚤このこ夫こ婦こか

ほこちこくことこ禪こにこ見こえこつこ蚤このこ夫こ妻こ哉

愛こ児こがこよこまこなこびこ相こ手こやこちこんこのこ蚤

蚤こ捕こりこやこ床こ揚こげこのこけこをこ見こるこ寐こ巻

蚤こ攻こめこのこ夢こ安こかこらこぬこ雨こ夜こか



何ぬの留に蚤に喰はれし雪うぬ

蚤一つ轉<sup>を</sup>寐の夢を破りたり

蚤の跡添席の母は数ノナリ

酒臭き車夫の小膝や蚤の跡

手の内を逃ける早さや朝の蚤

年<sup>は</sup>馬の痴又多し朝の蚤

妾宅に猫の蚤捕る女中一か

蚤一<sup>は</sup>成金の夢覚一ナリ

蚤<sup>は</sup>多い本貸よテルか

蚤一つ<sup>は</sup>飛込む花の茶<sup>は</sup>枝か

蚤<sup>は</sup>嫌い酒に酔かせませ

蚤一つ<sup>は</sup>捨如<sup>は</sup>な一客の<sup>は</sup>心

蚤一つ<sup>は</sup>たしなみの<sup>は</sup>草<sup>は</sup>解かせ

蚤<sup>は</sup>なごに持ちます蚤の<sup>は</sup>なを

むくくと太り<sup>八重</sup>抱<sup>て</sup>おの<sup>の</sup>蚕

蚕嫌いのふこの暖<sup>印</sup>何きナリ

大男<sup>大男</sup>一つの蚕を逃<sup>し</sup>ナリ

かせ<sup>かせ</sup>蚕は殊更痛く感<sup>じ</sup>ナリ

すなま<sup>すなま</sup>みに存<sup>存</sup>足らぬものを<sup>何</sup>月の蚕

<sup>満</sup>美<sup>美</sup>腹の蚕<sup>は</sup>はねるも<sup>粘</sup>々<sup>粘</sup>か

蚕<sup>皮</sup>を撫<sup>撫</sup>く押<sup>す</sup>お<sup>お</sup>の肌着

蚕<sup>一</sup>つ娘も追<sup>追</sup>ナリ

かせ<sup>かせ</sup>蚕の集<sup>集</sup>や<sup>や</sup>今<sup>今</sup>も一つの古<sup>古</sup>繭<sup>繭</sup>

大<sup>大</sup>蚕も捕<sup>捕</sup>つ<sup>つ</sup>糸<sup>糸</sup>安<sup>安</sup>く<sup>く</sup>眠<sup>眠</sup>ナリ

蚕<sup>捕</sup>るも朝<sup>朝</sup>のな<sup>な</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>か

故<sup>故</sup>郷<sup>郷</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>鹿<sup>鹿</sup>か<sup>か</sup>腰<sup>腰</sup>に<sup>に</sup>蚕<sup>蚕</sup>一<sup>一</sup>つ

蚕<sup>一</sup>つ<sup>つ</sup>逃<sup>逃</sup>か<sup>か</sup>て<sup>て</sup>母<sup>母</sup>は<sup>は</sup>猫<sup>猫</sup>を<sup>を</sup>呼<sup>呼</sup>ぶ

蚕<sup>一</sup>つ<sup>つ</sup>丸<sup>丸</sup>尺<sup>尺</sup>二<sup>二</sup>折<sup>折</sup>の<sup>の</sup>裏<sup>裏</sup>に<sup>に</sup>屋

蚤、居る一房の悪き子供が  
蚤喰ふた跡の月まや白ま肌  
蚤捕粉撒る敷き下りの床  
椽まきやきと持出す蚤の衣  
寝がれそ尚かぬにあるや蚤一つ  
蚤ひねる猿か顔の面白し  
蚤跳ねる團扇の席のふゆれ下り

蚤食いの瘦胫撫る田力か  
水攻めに退治せり大の蚤  
蚤喰うた跡をさするや親の悪夢  
蚤一つ二人かかり寝にけり  
眼鏡越し蚤捕る老や椽のま  
蚤攻めにさるは宿の一夜か  
木枕に蚤滑すまのやふまよせん

瘦 <sup>まきつひ</sup> 蚤 <sup>まきつひ</sup> や 捨 <sup>まきつひ</sup> り 甲 斐 名 末 碁 の 先

抱 麻 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 夜 半 に 蚤 捕 る 翻 心

奈 <sup>まきつひ</sup> を 出 した 娘 の 手 領 や 蚤 の 跡

蚤 捕 り や 一 <sup>まきつひ</sup> つ は 客 に 刈 ぬ に 下 <sup>まきつひ</sup> り

又 起 き <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 睡 <sup>まきつひ</sup> の 見 供 や 蚤 捕 粉

蚤 飛 <sup>まきつひ</sup> め や 五 尺 男 の 子 後 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup>

蚤 刈 ぬ <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 途 端 に 支 す 顔 と 顔

毛 胫 搔 <sup>まきつひ</sup> く や 軛 <sup>まきつひ</sup> が 一 <sup>まきつひ</sup> 傍 <sup>まきつひ</sup> ち 多 <sup>まきつひ</sup> る 乃 子 み 蚤

蚤 捕 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 手 柄 顔 多 <sup>まきつひ</sup> る 子 伎 師

横 網 <sup>まきつひ</sup> を 動 <sup>まきつひ</sup> か ず 蚤 の 力 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup>

成 金 <sup>まきつひ</sup> の 曲 <sup>まきつひ</sup> 破 <sup>まきつひ</sup> り 下 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 蚤 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup>

お ぞ ろ <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 蚤 <sup>まきつひ</sup> の 次 女 <sup>まきつひ</sup> や 顯 微 鏡

蚤 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 刈 ぬ <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 度 <sup>まきつひ</sup> を 走 <sup>まきつひ</sup> せ せ け

朝 <sup>まきつひ</sup> の 蚤 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 茶 椀 <sup>まきつひ</sup> 一 <sup>まきつひ</sup> 身 投 <sup>まきつひ</sup> け



夫婦とがらして蚤の行衛を導ゆけり  
床付かれぬ児の蚤漢る手燭か  
蚤剣れそ手元狂おそ余の行儀  
蚤憎し旅の一夜を舞らるし  
將軍に齒噛みさせけり蚤一つ  
蚤一つ親おやみ三人立せたり  
人の智ちを飛越す蚤の「つか  
客のこゝへ「悼りもな「外ゆる蚤

武夫も蚤とがらに心を動かさけり  
夕想ゆがむ練ねんる興きょう覺かくされつ尻の蚤  
愛人の心す肌着の蚤を挿けり  
蚤逃にがけそ角守かくまひな人き「指の腹  
縫代ぬいしろに虱しつかくし夫婦 蚤  
猫の蚤捕とらるをはりや位住居  
將軍を喰くひ蚤とがら有るに安旅やすり

得  
我  
意



丘  
逸  
友



音  
評  
与  
谢

老中秀逸

矣

得失一夢

了也

伸のし

重なる道

東波

了也

得失一夢

菫草千行

新石

紫水

得夫(夢)  
雨

子  
掛  
子  
家

川  
地  
高

和山

得夫(夢)  
雨

跡  
の  
掃  
除  
子

山  
坊

光風

雨

淨失一夢

氣

撒

如  
小  
軸

滿  
月

枝

淨失一夢

豆  
如

抄

以  
心  
願  
心

江  
南

得失一夢

長

轉

界

和山

得失一夢

春

之

標者

遊

架



得夫一夢

のふゆの

春



るまをのち

江南

得夫一夢

ね

小薰

あ



如

雨  
母  
振  
色  
指母

得失(夢)



都  
歸  
子  
煙

得失(夢)

光凡





感听

新  
分  
行

得六二愛

青川

致  
子  
如



子  
如

芝  
之  
左



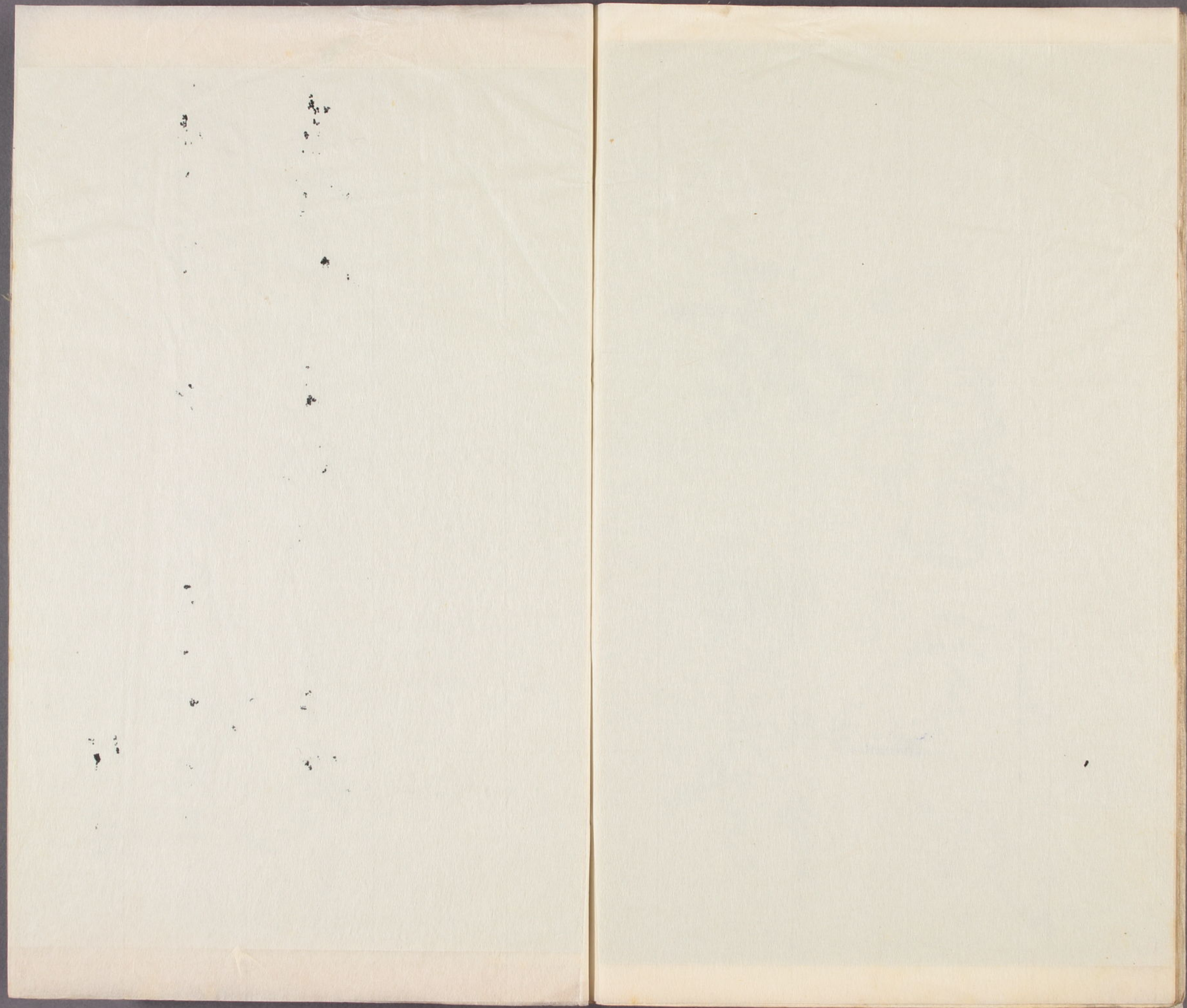
雨  
气  
此

淨  
失  
一  
夢

青  
川

毛 症  
此 洞  
毛 症 此 洞

子 飛  
此 令  
江南



疾の瘰可也久交瘰之也  
瘰之瘰也瘰之瘰也瘰之瘰也

林林



